

## 事業名：ミュージアム・エデュケーション

### 1. 事業の目的

本事業は、本学に隣接する東京富士美術館において、教育学部専門科目である「ミュージアム・エデュケーション」の履修学生が、授業の一環として八王子市および周辺地域の小・中学生に対し、美術鑑賞のサポートを行うものです。

小・中学生は、大学生との対話や触れ合いを通して、美術館や本物の美術作品と親しみ、自己理解や他者理解、観察力や多角的なものの見方など、発達段階に応じた「主体的・対話的で深い学び」に繋がっています。

履修学生は、美術館や美術教育、鑑賞方法等についての知識や理論を実践に変える場として学びを深めています。

こうして、大学と美術館が連携した授業を行うことで、地域の小・中学校におけるアクティブ・ラーニング等の充実に貢献しています。



### 2. 「ミュージアム・エデュケーション」について

「ミュージアム・エデュケーション」は、2015年に創価大学と東京富士美術館との連携授業として本格的に始まりました。

授業の半分以上は東京富士美術館内で行われ、美術館や美術作品、鑑賞プログラムに関する基礎的な知識の習得とともに、美

術作品と対峙する実体験(実感すること)に比重を置いています。授業の進行は講師が一方的に行うものではなく、主に自分・他者(他の履修生や鑑賞者)・美術作品の3つが核となり、対話的かつ主体的に行われるアクティブ・ラーニングが進められます。

従来のように知識(作品や作家についての情報)によって美術作品を位置づける鑑賞方法とは異なり、知識の有無に関わらず、実物である本物の美術作品とじっくりと向き合い、想像力と創造力を駆使して、自分と美術作品、自分と他者等との対話を深めながら鑑賞する「対話による鑑賞」に重きを置いています。

この方法を履修学生が実体験し、さらに小・中学生の鑑賞授業等でギャラリートークとして実践する中で、想像力や創造力、観察眼や多角的なものの見方、コミュニケーション能力や審美眼等を磨くことも本授業の目的の一つとして位置付けられています。

さらに教職を目指す履修学生は実際の小・中学生の授業を担う貴重な機会となり、履修学生全体としても教育現場に貢献するという高いモチベーションで授業に臨んでいます。実践を終えた後は、充実した振り返りとともに、自分の学びが誰かの役に立った喜びや達成感に満ちています。



## 事業名：ミュージアム・エデュケーション

### 3. 鑑賞授業の実際

2019年、東京富士美術館を訪れた八王子市および近隣の小・中学校は28校(2度目以上の来館は1校と数える)であり、児童・生徒の人数は計2144名です。このうちミュージアム・エデュケーションの履修学生が担当した鑑賞授業は2割程度です。

実際に授業をする学校が決まると、履修学生は児童・生徒の実態や学校側の要望・学びのめあて、タイムスケジュール等の条件に即して、当日のサポート内容や扱う美術作品、ギャラリートークの内容等を決めます。来館する児童・生徒を思い浮かべながら、その視点に立って様々なケースを想定してプログラムを組み立て、練習・準備をします。履修学生はチームやペアになり、当日はそれぞれに児童・生徒を少人数に分けて担当し、1点1点の美術作品と対話しやすい環境をつくりまします。

「対話による鑑賞」のギャラリートークは、子どもたちが美術史等の知識に偏重することなく、学生が投げかける質問に応える形でさまざまな視点から自由な心で本物の美術作品と向き合い、率直に感じた思いや疑問・発見などを共有します。例えば、「この絵の中の温度は暑そう？寒そう？」「この絵からどんな音が聞こえてきそう？それはなぜ？」といった五感を研ぎすまして想像させるような質問を投げかけて、子どもたちを美術作品と向き合わせます。また別の例では漫才や寸劇の形式をギャラリートークに織りまぜ、子どもたちを飽きさせない工夫をします。勿論、子どもたちからは予想外の反応もたくさんあり、準備したシナリオ通りにいかないことも多くありますが、履修学生にとっては充実した実践

の場となっています。

実際にギャラリートークを担った学生からは「練習より緊張してしまっただが、子どもたちがどんどん発言してくれて助かった」「小学生に簡単な言葉で伝える難しさを感じた」「想定外の発想で美術作品を見ていてその想像力に驚いた」等の感想が寄せられています。

学生によるこうした工夫を凝らした鑑賞プログラムによって、子どもたちは楽しく豊かな美術鑑賞体験を得ています。そして、美術作品のもつ良さや美しさ面白さに気づいたり、自分と相手の見方や考え方の違いに気づいたり、充実した学びを得ています。なかには普段、教室では集中力が保てない子どもが長時間集中できたり、発言が乏しい子どもが積極的に発言したりと、履修学生による「対話による鑑賞」のギャラリートークによって新たな子どもの可能性をも引き出しています。

ミュージアム・エデュケーション履修学生による鑑賞授業を実施したいとの小・中学校の数は年々増加しています。

